

## 「中秋節」と月餅

岡山県上海事務所 専任スタッフ 馬小琳

### 古くから祝われてきた中秋節

毎年、旧暦の8月15日は、中国の伝統的な「中秋節」と呼ばれています。この時期は、ちょうど秋の中頃にあたるため、「中秋」と呼ばれます。また、旧暦では、一年間を4つの季節に分け、さらにその季節を「孟、仲、季」の3つに分けていたため、秋の真ん中にあたる8月は「仲秋」と呼ばれていました。そのため、「中秋節」は「仲秋節」とも言われます。そして、今では、中秋節は、中国では「春節」に次いで二番目に大きな祝日になっています。

唐の時代の詩人李白に「挙頭望明月、低頭思故郷（頭を挙げて明月を望み、頭を低れて故郷を思う）」という有名な詩がありますが、このことから、月が「吉事」と「家族団らん」の象徴として、古くからずっと人々に親しまれてきたことがわかります。

### 中国各地で繰り広げられる月餅商戦

日本には「中秋の名月」を観ながら、月見団子を食べる風習がありますが、中国では中秋節に月餅を食べることが、端午節にチマキを食べることと同様の風習となっています。月餅は、本来、月を祭るときの一種の供え物でしたが、次第に一般的なお祝いの食べ物になっていきました。

私が小さかったころの月餅は、黒糖、小豆、緑豆といった種類しかなく、当時はまだ、包装にそれほど関心が払われていなかったため、現在のような豪華な箱入りではなく、一つ一つバラ売りされ、簡単な四角い包装の上にお祝いを

象徴する赤い紙一枚だけが置かれていた記憶があります。



豪華な包装で売られている現在の月餅  
(写真のものは120~150元)

しかし、中国経済の発展と、生活レベルの大幅な改善に伴い、現在、市販されている月餅は、中に玉子やアイスクリームが入ったものなど、さまざまな種類が増えるとともに、包装も次第に豪華になり、人々の包装に対する意識が変わってきたことがうかがえます。



買い物客でにぎわう月餅売場

中秋節の前には、中国各地で激しい月餅商戦が繰り広げられます。上海も例外ではありません。

ん。上海で売られている月餅は、北のものとは味が異なり、蘇州式の月餅や上海ならではの風味がある一方、中国各地の月餅も売られています。また、値段も様々で、スーパーなどで扱われている家庭用などの小さなものは、1箱（5～10個入り）あたり50～80元ほどですが、高級百貨店やホテルで売られている企業などが贈答用に使うような大きなものでは200元はします。さらに、数百元どころか、99,900元（日本円で約120万円）もする、黄金製の月餅まであります。

### 大きな経済効果が期待される今年の中秋節

今年の「中秋節」は去年より19日遅れで、ちょうど中国建国60周年の国慶節と重なり、今回の大型連休は10月1日から8日までと、史上一番長い連休となりました。上海は多くの外来人口を抱えています。「每逢佳節倍思親（祝日には、一層、親を思う）」、一年中都会で働いている人々の夢と希望は、故郷にいる家族と一緒に過ごすことでしょう。この時期になると、列車の切符と航空券が一番高くなるシーズンにもかかわらず、お土産に月餅を手に帰省する人々がたくさんいます。今回の大型連休中の「中秋節」には、より一層の経済効果が期待されています。

（2009年 9月）